

季刊 まち・コミ

2014年 夏号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>

7月25日、御蔵学校開催。くわしくは、本誌5ページとチラシをご覧ください。

今月の注目記事 P1 参加者募集！ 学生有志と地域を学ぶ合宿 —三陸沿岸の漁村にて—

参加者募集！

学生有志と 地域を学ぶ合宿

—三陸沿岸の漁村にて—



まち・コミでは、東日本の被災地(主に、宮城県石巻市)にて、地元住民へ震災前の生活等を聴き取り、地元住民が生活再建するためには、“何が”必要かを、一緒に模索している。聴き取りで、まちづくりに関わる外部支援者が学ぶことは大きい。そこで今回は、夏季休暇を利用して、学生さん有志と共に、地元のまちづくりに関わる方のお話を聴いてみようという調査合宿を企画しました。地域づくりを自主的に学びたいと思う学生や、そんなフィールドを共にしたい先生方のご参加をお待ちしています。

雄勝町での学びの合宿 - 学生有志等との調査合宿 -

【日時】2014年8月27日(水)～29日(金)

【場所】波板コミュニティーセンター(宮城県石巻市雄勝町)を拠点に、各地へ調査に行きます。

【内容】地域のリーダー等に、これまでの経緯の聴き取り調査を行います。

【対象者】被災地で地域づくりを学びたい学生(事前に資料等が読み、準備にコミュニケーションがとれる方) 学生をサポートしていただき、被災地で共に学びたい先生方

(夜には、調査・研究が地域で本当に生かせるかをディスカッションできればと思っています。)

【お問い合わせ】特定非営利活動法人 まち・コミュニケーション(電話：078-578-1100)

申し込み締切は7月31日。定員(30名程度)になり次第締め切ります。

現地集合で、宿泊費・食費等は実費をご負担ください。

第二次調査を9月後半に予定しています。

調査活動までの経緯

神戸での話合いの苦悩の経験が、東日本での関わる方法に

甚大な火災被害を受けた長田区御蔵通では、“(戻りたい)人をまちに戻そう”と、まちづくり協議会が設立され、会議が継続して行われた。当時の現地の状況は、震災による倒壊や火災の被害により、瓦礫処理等に時間を要し、従前地で住むことが難しくなり、徐々に人が居なくなっていた。そして、地域の被災者の全体状況の把握が難しくなる中で、住民達は、会議を行わざる得なくなった。その上、会議に出席し、話合っている人々も、生活再建の資金のため、仕事が忙しくなり、住民同士もコミュニケーション不足になりがちであった。

その間を少しでも繋ぐためにまち・コミは、地域に常駐する外部者として、(情報共有のため)会議での議事録作成や、転出者への聴き取り等の活動をした。聴き取り調査の中では、震災前の生活の様子や、震災後の生活再建の様子を聞いていった。被災者は、聴き取り調査中に振り返り、今後の生活再建の意向を整理していき、住宅再建の選択(転出・現地再建)をしていった。現地再建の選択では、個別再建だけでなく、聴き取りを受けた数人が集って、再建方法を話合った。住まいの勉強会を重ねるにつれて、“集まって住む”という共同再建(マンション形式)も住宅再建の選択肢になるのではないかと、勉強会后、さらに模索し始めた。そして、建設希望者(8世帯)自らが、建設組合をつくらうと動き、外部支援者の手を借りながら、共

同住宅“みくら5”(詳細は「みくら5記録集」参照)を完成した。

また、地区内には震災前借家住まいの方も多かったので、従前地区に公営住宅で再建して欲しいというニーズが多かった。その方々への生活再建の意向と生活実態(震災前の住まい方、家族形態等)の聴き取り調査を行った。聴き取りをしながら、徐々に明らかになってくる被災者向けの市営住宅の状況(建設時期、入居条件等)を伝え、被災者自らがどの市営住宅にするのが良いか判断するための情報を、公営住宅希望者に届けた。その後もできる限り、地元の方々の聴き取りを元に、地域の方が自ら行動し、地域コミュニティスペースの運営や、集会所づくりを行った。

住民の意向を活かしながらまちづくりに取り組んでいた。しかし、会議の中だけでは住民の生活を知ることが難しいこともあり、常駐し、普段のつきあいから、聴き取り、生活実態を感じていた。しかしうまくフォローできないこともあった。そこで、振り返って改めて思うことがある。「地域に住む多くの方が、地方から出てきた。これまでどんな生活を送ってこられ、どんなことを大事にしてきたのか、しっかり聴いて人と人を繋げたのだろうか?」と。

今は、東日本大震災の被災地の、沿岸部で活動している。当団体は、関西出身のまちづくりNPOである。三陸沿岸部の生活(漁師町の生活)を、まったくと言ってよいくらい知らない。その生活史を知らずして、生活“再建”について考えても、何を再建するのか(=被災した当事者が何を



共同住宅「みくら5」(神戸)



建築家による住民ヒアリング(神戸)

どのように再建したいのか)は、わからないのではないかと思う。

復興まちづくりの現場で 20 年常駐し、地域の方々と接して思うのは、“何を再建するか”を知る意義は、外部者が支援のためではなく、本来は、「住民自身が、地域の変化の構造を捉え、自分達の力で、住みよい地域をつくり運営することができるという感覚を持つこと。」が大事であると実感した。外部者は、当事者にはなれないが、当事者の想いを聞き、事実に基づいてまとめ、当事者に返すことができる。それをその人の想いだけでなく、次の第三者に伝えられるデータとしてまとめ、表現する方法を一緒に考えることもできる。大きな社会システムの中で、当事者自身から、環境を少しでも良くするためには、客観的なデータを持つことが、伝える当事者自身にとっても重要である。その補佐として、一緒に悩み考えるくらいはできるのではないかと取り組んでいる。

調査の方法

これまで書いてきたように、“震災前の生活(地域史)”や、“震災からの生活再建”について、当事者一人一人から、聴くことを大切にしてきた。震災前の生活では、今回被災した人が、どんなことを取り戻したいか、これまでの生活の中で、どのような社会関係が築かれてきたか、それは、地域に特有のものか？

聴き取りの方法は、生活史については、地元の方のところへ向かい、お話しを伺う前に信頼関係を日々のおつきあいからつくり、図書館や地

元の方から貸していただいた町史や町勢資料を読み、事前にわかるキーワードや写真を集め、それを、当事者に持って行き、聴き取りを行い、震災前のまちの景色を共に具体的にイメージする時間をつくる。

生活再建については、復興計画や、地域で行われたこれまでの会議の内容をお聴きし、復興の中で生活者から見た現実を捉え、現在、そして、今後の被災者に伝え共有することで、活かさないかと思い、まとめている。まち・コミ東北事務所にはほぼ常駐するスタッフの宮定が行っている。ひとりでは限界があるが、学識経験者や学生が来て頂けるので、興味のある学生には協力していただいて、共に記録作り等をして頂いている。

調査をして、具体的に明らかになってきた一人一人の生活再建

2014 年 5 月からは、専修大学文学部博士課程の院生(田仲聡君)と共に、4 月から約 2 ヶ月の合宿生活をし、主にある浜の(仙台、石巻等)転出者の新しい自宅を訪問し、聴き取り調査を行った。そこで、生活再建の場所における判断の視点には、“家督(家系)を守ること”、“漁業権(職業)”、“年金”、“ご自身の健康と近所の家族の状況”等が、大きく影響していることが把握できた。

4 年目に入り、生活再建の判断を誰からも聞かれず、その決断しようとする時期が来ている。そこで、是非地域のリーダーは元より、地域のいろいろな方々のお話しをもっと聴く必要があると思う。



大正生まれの方へ地域の昔の生活の聴き取り



東日本被災地調査 学生まとめ作業中

その記録をお渡しすることで、当事者に、今までの生活再建を振り返ってもらいたい。復興には何が必要かを、考える時間を確保してほしいと取り組んでいる。

振り返り、考える時間を持つことで、今後、生活再建を選択する場面で、自分の選択肢について、説得力を持って関係者に説明できるようになるのではないかと。

そして、記録をもとに、さらに、地元の方が、自ら動くようになれば、適宜、状況把握を行い、地域の持続的な運営につながるだろうと取り組んでいる。

復興まちづくりの現場では、多くの住民参加のまちづくりのために、会合が開かれ、その都度その都度、組織判断を迫られる。そして、議論はいろいろあるものの、最終的には、Yes or No の意思表示になってしまう。会議に出て、すぐに自分の意向を伝えることができますか？ 皆が、これまでの生活の経緯を踏まえて、伝えることは、難しいと思う。

ハードを作って終わりではなく、まちの持続的運営と深く関係する復興まちづくり事業。その話し合いには、生活再建を十分に把握した住民一人一人の想いを表現することが大事である。聴き取り調査は、データそのものも大事だが、外部支援者が介在することで、当事者が、今までの生活を振り返り、頭で再整理し、納得のいく判断を見つけ、言葉にし、自分の伝えたいことを表現するために磨きをかける方法の一つと考えている。



昭和 8 年の写真を、タブレットで見て盛り上がる

活動中の反応

2012 年 2 月、三陸沿岸に来てから、地元の会議に出たり、地域の方のお話を聞いている。

a. その会議に参加され、まちづくりを始めていたお一人が、「(いろいろ悩んでいてすっきりしないときは、)まち・コミの さんがいるよ！」と、他地域で、これからの造成完了まで長いまちづくりをどうするか悩んでいる方に、推薦してくださいました。その人と一緒に一人一人の住民を訪ね聴き取りをしている。

b. 震災当時から、ある浜を支援する外部支援者が、神戸の大震災を経験しており、出会った。震災後の神戸のまちづくりの経緯をご存じで、まち・コミの資料を渡すと、興味を持ってくださり、その浜の方に、紹介して下さった。現在、その浜の一人一人に聴き取り調査を行っている。

今回の調査に向けての準備状況

今回の調査に向けて 5 月より研究会を重ね、7 月 1 日、9 日と、学生や先生方と打ち合わせを行った。また、7 月 4 日、7 日には、聴き取り調査の専門家に、調査段取りのご意見を伺った。

今後は、7 月 22 日に、調査対象者の絞り込みや、調査項目等を議論し、これまでの関係性を活かし、聴き取り対象者に、事前のお願いに伺う。現在既に、東北大学、東北工業大学、中央大学、専修大学、徳島大学、関西大学、首都大学東京等の学生が、参加希望してくれている。

これから、参加者同士で地域の情報の共有をし、事前に学び、当日にできるだけさらに多くの学びがあるように、準備をしている。

今後の調査

調査を通じて、その人その人にとって、生活再建するためには、“何が”必要かを、聴き取り、一緒に模索していく。その上で、地域の持続的運営に、“何が”必要かを、模索する環境づくりをしたい。今後も地元の方と共に、対象を 市街地の人々、 養殖(つくる漁業)の浜の人々の暮らしと沿岸漁業(とる漁業)の暮らし、大きく被害の受けた地区と、被害の少ない地区の震災後の地域運営、 雄勝町周辺の地域の暮らし、等を比較し、集落の構造を把握しまちづくりに生かしていく予定である。

ご指導・応援よろしく申し上げます。



第22回 御蔵学校開催!

チラシも
ご覧ください

講師: 鉢村 健 氏 (日本銀行神戸支店 支店長)

テーマ:「阪神・淡路大震災から20年目を迎える神戸の経済動向について」

【日時】 2014年7月25日(金) 18:30 ~ 20:30

【場所】 特定非営利活動法人まち・コミュニケーション御蔵事務局

神戸市長田区御蔵通5丁目211-4-101 みくら5(ファイブ)101号室

最寄り駅:神戸高速鉄道「高速長田」駅 徒歩約3分

【参加費】 一般 1,000円 / 学生 500円

【主催・連絡先】 特定非営利活動法人まち・コミュニケーション

要事前申し込み

メール m-comi@bj.wakwak.com

電話 078-578-1100 FAX 078-576-7961

最新情報はブログをご確認ください。

<http://machicomi.blog42.fc2.com/blog-entry-2197.html>

大地のつぶやき

〽 四国巡礼の旅 〽

陳舜臣さんが空海を愛情溢れる筆力で書いた名作「曼陀羅の人」を読んで、まだ余韻のさめやらぬ間の四月一日から四月十日、四国八十八ヶ所霊場巡りをした。四十年前義母を亡し、一年かけて自家用車で西国三十三ヶ所と番外を含めて巡り、充実感を得ていた。今度は四国をと思っていたが大震災でそれ所ではなくなっていた。健脚には自信があったが去年春突然走れなくなり「変形性膝関節症」と診断された。今回は四才年長の兄(彼は二度目)と一緒に自家用車で巡礼する。初日徳島県一番霊山寺から始め十七ヶ寺、順に六ヶ寺、四ヶ寺、八ヶ寺、四ヶ寺、八ヶ寺、十三ヶ寺、十四ヶ寺、十三ヶ寺、十日目は桜満開の大窪寺と一番に戻り、徳島港から和歌山港、紀ノ川沿いを逆上り三時半頃高野山奥の院へ。まだ桜が残って、桜に始まり桜に終わった四国巡礼だった。

今年には巡礼開創千二百年、道中色んな出会いがあった。二日目日和佐の宿では埼玉川越から来た七十才の歩き遍路の男性は「七十才を期に何か一番きついことに挑戦と思ってきたが、こんなに厳しいとは思わなかった。明日一旦帰ります。でも色んな接待を受けこの人情は異次元のものだった。帰って足の痛みがとれたらまた挑戦したい。」と言って感動させられた。彼は八日目だそう。遍路の良さは随所随所あり感動の連続でもある。でも歩き遍路さんには恐縮あるのみ。日和佐、室戸、足摺の太平洋の打つ波はドドーンと地響きする男性的なもの。一方瀬戸内津田の松原ではパシヤパシヤと女性的なものだ。足摺でみた夜空の満天の星、無数の星粒が作る銀河系、沢山の星がキラキラと光り輝いている。半世紀前北海道瀬棚で見て以来感動に吾を忘れる。霞にも見舞われた。石鎚山も八合目より上は真っ白だ。野の花や野菜畑、老杉の並木道を通り抜ける空気に自然を感じる。車遍路なので接待を断っているのに押し頂く人情。これぞ巡礼の醍醐味か。今度は歩き遍路に挑戦したいが...行き倒れになるかも...

株式会社兵庫商会 田中保三

まち・コミ活動報告 3/1～5/31

- 2/25-3/12【復興支援】東北行き 修学旅行生・大阪にて(田中) 大会・大阪大学(宮定)
- 3/12【講師派遣】豊中フォーラム(宮定) 4/22【講師派遣】関西大学社会安全学 5/12-15【復興支援】東北行き
- 3/13-19【講師派遣】台湾国際学会(宮 部(戸田) 5/15【震災学習】各務原市立中央中学
- 定) 4/23【震災学習】語り部打合せ 校
- 3/19【研修受入】松山大学人文学部社 5/6【国際交流】陳舜臣アジア文藝館ブ 5/18-20【復興支援】東北行き
- 会学科(田中) レオープン 5/20【震災学習】下見受入
- 3/24【震災学習】下見受入 5/8・9・22・23【研修受入】神戸学院大学 5/21【震災学習】静岡市立清水第二中
- 3/29【地域交流】出石市民農園 防災・社会貢献ユニット(宮定・田中) 学校
- 4/2-5/5【復興支援】東北行き 5/10【地域交流】出石市民農園 5/22-【復興支援】東北行き
- 4/15【講師派遣】新潟市立白根中学校 5/11【講師派遣】日本法社会学会学術 5/28【震災学習】周南市立周陽中学校

ご支援、ありがとうございます。3/1～5/31(新規・継続) 順不同・敬称略

- 【賛助会費】紅谷昇平(兵庫県) 寺田孝(兵庫県) 藤村晴彦(兵庫県) 馬場ひろみ(東京都) 熊坂ひろ子(東京都) まつしまハル(熊本県) 大久保正之(兵庫県) 田中聡(東京都) 船木美子(愛知県) 小熊英二(東京都) 十時由紀子(東京都) 株式会社まちづくり研究所(東京都) 橋本渉一(兵庫県) 小森宰平(兵庫県) 岡宗秀樹(兵庫県) 松山幸子(兵庫県) 小林敏信(兵庫県) 熊田俊郎(東京都) 大橋良雄(愛知県) 池田寛(香川県) 栗原昭顕(広島県) 池田浩敬(静岡県) 信綱寺(長野県) 片瀬道昭(兵庫県) 佐藤麗司朗(東京都) 宇都彰浩(宮城県) 平山勝廣(埼玉県) 川瀬光義(京都府) 株式会社防災&情報研究所(東京都) 株式会社森口商店(兵庫県) 成田千尋(京都府) 安田正(兵庫県) 寿松木宏毅(秋田県) 小林恵美子(京都府) 大久保妙子(兵庫県) 大塚康夫(大阪府) 有馬嗣朗(山口県) みなと元町タウン協議会(兵庫県) 有限会社スタジオカタリスト(兵庫県) 間野博(福島県) 荒木正昭(熊本県) 川崎茂(大阪府)
- 【寄付】藤原恵(広島県) まつしまハル(熊本県) 田中聡(東京都) 小林敏信(兵庫県) 河喜多勝(福岡県) 信綱寺(長野県) 金子由芳(兵庫県) 赤松愛子(兵庫県) 千葉桂司(奈良県) 有馬嗣朗(山口県)
- 【購読会員】河喜多勝(福岡県) 西浦英子(兵庫県)
- 【協力】社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県神戸市) 味六亭(宮城県石巻市)

会員募集中!

認定NPO法人申請を目指し、より多くの方に賛助会費もしくは3,000円以上のご寄付をお願いしています。認定NPO法人になると、寄付者は税制上の優遇措置を受けることができますようになります。(正会員と購読会員は寄付者に含まれません)

さらに活発な活動を行うため、会員を募集し、資金面でのご支援をいただいています。
また、会員は1年更新とさせていただきます。現在会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は「季刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名ラベルに記載していますので、ご確認ください。)

会員種別

- 賛助会員**
当法人の事業を、会員として賛助してくださる方
年会費：5,000円(学生3,000円) 総会議決権：なし
- 正会員**
当法人の目的に賛同し、ご入会くださる方
年会費：10,000円 総会議決権：あり
- 入会申込書のご提出をお願いしております。
- 購読会員**
当法人発行の「季刊まち・コミ」購読希望の方
年会費：3,000円 総会議決権：なし

編集後記 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンさんより、御菅カルタを参考にした「山田町カルタ」ができましたと、うれしいご報告。子どもたちの手作り郷土カルタです。(戸)

お振り込み先

- 名称 特定非営利活動法人まち・コミュニケーション
- 【郵便振替】
口座番号 00950-3-42788
- 【三井住友銀行・長田支店】
普通口座 7669623

ご寄付もよろしくお願いたします

2014年7月1日発行 no.7

編集/発行 特定非営利活動法人
まち・コミュニケーション

事務所 〒653-0014
兵庫県神戸市長田区御蔵通5-211-4-101(みくら5)
TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東北出張所 〒986-0859
宮城県石巻市大街道西1-14-101 味六亭 相澤様方

e-mail m-comi@bj.wakwak.com
URL <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>

ホームページからバックナンバーをご覧いただけます